グループホーム　虹

［認知症対応型共同生活介護用］

1．　調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成20年　3月　31日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500764
法人名	医療法人　牧山医院
事業所名	グループホーム・虹
所在地	長崎県大村市黒丸町１６５３－１ （電　話）0957-55-6712

評価機関名	特定非営利活動法人　　福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町５番３号　大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年　　3月　26日

【情報提供票より】（平成20年　2月　14日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　14年　3月　1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	16　人	常勤　14人，　非常勤　2人，　常勤換算　13.4　人	

（２）建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート　造り
	2 階建ての　１～２　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	25,000～33,000　円		その他の経費(月額)	13,000　円
敷　金	有（　円）	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要（　３月　２６日現在　）

利用者人数	名	男性	名	女性	名
要介護１	4　名	要介護２		4　名	
要介護３	2　名	要介護４		2　名	
要介護５	5　名	要支援２		2　名	
年齢　平均	87.1 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人牧山医院　坂口歯科　介護老人保健施設うぐいすの丘

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大村市街の静かな場所で、廻りには畑やショッピングセンター、空港などがあり自然環境にすぐれ穏やかにすごせるホームである。利用者は地域に住んでいた方が多く、自分の生活範囲で安心して暮らすことができている。理念の中の「ゆったり、楽しく、自分らしく、利用者の方が家庭的な環境の中で落ち着いた生活を作り」の言葉は職員に浸透しており、介護姿勢や目標が確立されている。研修に接遇・マナーを取入れ利用者の尊重を心掛けている。管理者と職員の連携がしっかりとれ、家族との協力体制も強いものになるよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善項目である記録の明確化、日付、サイン漏れ、申し送り、など書類に関する事項は、皆で見直すきっかけ作りになり、全職員で話し合い検討し改善の取り組みがされているのが確認される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は全員で話し合い記入して、各ユニットのリーダーが作成しその内容を回覧することで職員に共有化されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は２～３ヶ月に１度実施しており、町内会長、老人会会長、家族代表、市役所長寿介護課職員で構成されている。出席者からはホームに関する質問が多数あり、利用者家族や地域住民との関係を築くよいきっかけとなっいる。自治会長が元民生委員だったこともあり、協力体制があり今後に期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族との絆ができており、不満や意見が言いやすい環境を作っている。職員が家族の面会時や普段の会話より、要望や意見を聞き対応している。家族の思いと利用者の状況との間では難しい点もあるが、応える努力がされていて、運営推進会議の中でも反映されるよう支援している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	昨年から自治会に入会し、町内会の焼肉会にも参加することができた。町内会長さんが民生委員をされてたこともあり運営推進会議などを通して地域の方へ働きかけをし、交流に努めている。今後回覧などを通して、ホームの様子や認知症に関することを発信していく姿勢が感じられる。

2.　評　価　結　果（詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の「ゆったり、楽しく、自分らしく、利用者が家庭的な環境の中で落ち着いた生活をおくるための、柔軟な支援」をもとに職員とも地域密着を話し合い、地域交流の機会を増やす検討がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月１回のミーティングで理念を基に介護姿勢についての話し合いをしている。職員自身の目線で見ず利用者の個性を大事に、自分らしさ、利用者のペースを尊重しがらの理念が通常の生活の中で実践される取組みがされている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年自治会に入り焼肉会など行事に参加している。ホームの行事には地域の参加を促しているが、交流のきっかけつくりを模索している段階である。	○	民生委員とのつながりから、ボランティアとの交流をすすめてもらうなど検討や、運営推進会議において、出席者からの意見や情報交換ができる体制ができているので、ホームの行事などを地域の方へ紹介するための具体的な検討が望まれる。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での要改善事項については皆で考え直すきっかけとして話し、意見を出し合い、利用者がより安心して暮らせるよう、職員全員での取り組みがなされた。自己評価は全員で記入して話し合い、各ユニットのリーダーが作成し、その内容を回覧し、職員全員で共有化している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は２ヶ月に１回実施している。町内会長、老人会会長、家族代表、市役所長寿介護課職員、各ユニット管理者で構成されており、出席者からは多数の質問や意見交換がなされ、地域との交流を深める場として、又ホームを知ってもらう場として努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談委員より訪問予定表が送付され、２ヶ月に１度訪問がある。その際利用者と直接話したり、情報交換や相談内容を踏まえての意見交換をしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月の面会時に請求書と領収書を渡し確認印を得ている。月１回の家族への便りは、スタッフがそれぞれ日々の暮らしや行事を写真と共に言葉を添えている。又２階においては、昔の懐かしい利用者の写真を元にアイデア溢れる便りをシリーズ化して、面会時に渡したり送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が家族の面会時や普段の会話より、要望や不満を聞き伝えている。家族の思いと利用者の状況との間ではなかなか難しい点も多いが、なるべく応えるよう努力がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないようにしている。各ユニットとも全職員が利用者を見守る支援がなされており、異動によるダメージを防ぐ配慮がされている。又職員が利用者を家族同様に思いやる気持ちが強く、安心して暮らせるホーム作りになっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は院内研修や外部研修が設けてあり、希望を取り入れられる態勢があり、研修後はミーティングなどで共有化されている。職員のスキルアップのための研修は事業所が応援して受講することができる。新人研修においては３ヶ月はリーダーのもとで実践を踏まえながら、接遇、マナーの研修も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市グループホーム連絡協議会、安全対策委員会、各駅停車など職員研修の場で、他のグループホームとの情報交換ができて、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら除々に慣れるようにしている。利用者の情報を得るために、電話をかけたり、場合によっては自宅まで出向いて書類作成を行うなどしている。利用者が馴染むまでは職員が話しかけたり、寄り添いながら馴染める工夫をしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬の意を共有化しており、日々利用者から教えてもらうことが多い。職員は利用者を家族の一員として接しているため、常に喜怒哀楽を共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 　一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の暮らしの記録や生活歴、家族との話の中から、意向の把握に努めている。表現できる人には声かけをし、困難な利用者は表情や動作から汲み取るようにした心づかいがされている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 　本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせるように日々の記録やモニタリングを参考に、かかりつけ医や家族との話し合いのもとで計画を作成している。それぞれ担当がおり、１０日おきに見て問題があれば、その都度様子を見て早急に対応し、面会時にそれらを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 　介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年後の見直しだが、１ヶ月の中で気づいたことを、毎月の各ユニット会議で職員全員による情報交換をし、その後２階においては、家族に来てもらいスタッフと相談し作成して同意を得ている。１階では、面会時に相談して家族の要望を取り入れコピーを渡している。状態が変化した際には、その都度対応して新たな計画を作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 　本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて柔軟な支援をしている。買い物、散歩、外出、移動美容室が２ヶ月に１度訪問がある。又亡くなられた方の墓参りにスタッフが出向き、家族から喜ばれている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前のかかりつけ医での医療受診や訪問診療が受けられる。協力医の定期往診は、毎日その人に合わせて処置を行えるように看護師が一緒に来て行うなど、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについて家族に説明し、支援している。職員も利用者との関わりの中で看取りについての認識がある。慣れないスタッフの場合は、スタッフ同士で連携をとる配慮がされ、状態が変化した場合は、看護師のもと全員で看取りに対する姿勢がなされている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩と敬い、一人ひとりに合わせて言葉使いや声かけをしている。書類や薬の保管、他の家族に対しても個人情報の取り扱いにおいては、十分注意を払っている。職員は採用時にプライバシー確保の同意書を作成している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあるが、利用者のその日の状況から一人ひとりのペースを大切にし、見守りをしている。食事や入浴、朝起きや寝る時間においても、その日の本人の気持ちを尊重して支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 　食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは各ユニットで異なっており、利用者の好みなどを入れて作成されている。食事は職員も一緒にテーブルを囲み、笑い声が聞こえるなど楽しい雰囲気作りがされている。窓から見える朝日、夕陽はよりいっそう食事が楽しめるようになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・火・木・金と決めているが、利用者の要望があれば対応できる。風呂湯はかけ流しにして清潔感があり、入浴できない利用者は足浴や清拭にしたり、車椅子の利用者のためにシャワーができるなど利用者それぞれに合わせた入浴の支援をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴や趣味を活かした活動を促している。茶碗洗い、洗濯物たたみ、新聞折り、料理の手伝い、食材買出し時には野菜の見分けたり、生け花教室に参加などしている。家族の面会時には一緒に外出支援を行っている		
25	61	○日常的な外出支援 　事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩、買い物、ドライブでは空港や花見などへ全員で出かけている。買い物に出かけると、家族や友人と会うこともあり、利用者の楽しみにもなっている。車椅子移動の利用者も外出支援がなされている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 　運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が利用者の日々の暮らしを見守る態勢がなされており、日中は鍵をかけず自由に暮らせる支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回消防署、自治会、近隣のグループホームの協力を得て避難訓練を行っている。夜間想定の避難訓練も行われている。全職員と利用者参加の避難経路の確認、緊急対応、消火器の取り扱い方の訓練をし、緊急時の連絡網も作成されている。居室表札は避難誘導と有無の確認が出来る工夫がされている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は好みなどを入れ、個々の状態に合わせて作成し栄養士の助言を受けている。水分量は、毎食のお茶、吸い物、薬の時の水、おやつなどで支援している。食事量、水分量は個人記録で確認でき日々体調に合わせた対応が出来ている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家にいるような食卓テーブルやソファーなどが配置され、暖かくくつろげる雰囲気を工夫している。リビングの窓から見える景色は、朝日・夕陽が見られこころが安らげる配慮がなされ、共用の空間も広々として居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各部屋とも陽射しが入り明るく、季節感が窓にて演出され、使い慣れた物や、好みのもの、家族の写真が多数壁や写真立てであり、本人が居心地よく過ごせるようにしている。		

※ ▒ は、重点項目。